いの町史編さん室だより(No.4)

広報11月号内に掲載の「いの町史編さん室だより」はご覧になっていただけましたでしょうか？　平成26年の町の合併10周年を目標に「いの町史」の編さんを進めている町史編さん室では、町民の皆さんが参加する町史作りを目指しています。つきましては、町史編さんに役立つと思われる資料・写真などがあれば、ご連絡ください。

それでは、今月のためになるちょっと懐かしい話をご覧ください。

編さん室からのちょっと懐かしい話

みらいの章担当：中村千代重

「堰(せき)と水路」

「いの町史」との関わりで、記録しておきたいものの一つとして、４月に堰の写真撮りに同行した。

「堰」といっても「八田堰」のような大規模なものではなく、うちんくの集落の田んぼへ水を引くために造られた「堰」や「ゆで」を吾北地区内で20カ所ぐらい見てきた。

小川の“瀬越”の下の「鎌ヶ渕」の堰、小川では一番長い水路をもつ新別“いしがみ”の堰。中州をまたいで二つの川に造られている“川原田”の堰などである。

私自身の「堰」についての思い出の中には、当時の堰はセメントで造られたものではなく、石を積み上げたものや、石を並べたものが多かったように思う。石と石との間を水中めがね(顔面)で覗くと、泡立った水の中には、ゴリ、ハゼ、オコゼ(アカザ)、エビがおり、堰の上の浅い渕には、ドンコ、ドジョウ、鮎、はえもの(カワムツ、オイカワ)が。用水路の口で深くなっている所には、大きなイダ(ウグイ)やコイが泳ぐのんびりした懐かしい風景が浮かぶ。

水路についても、彼岸花が咲くころになると思い出すことがある。

小学校３年生のころだったと思う。田んぼに水がいらなくなると水路の水を止める。すると所々に水たまりができ、そこに小魚やエビを閉じ込めてしまう。初めは棒で突っついて魚を追い出して獲るのだが、水路の山側の岩の下に魚が入ってなかなか獲れない。それが気にかかる。そこで、彼岸花の花や茎の部分をつぶして水たまりに投げ入れてみた。

小川・瀬越の堰を下流から望む

２～３時間様子を見ていたが変化がなかったのであきらめ、次の日の朝早くに見に行ってみると、なんとたくさんの小魚(ゴリ、ハゼ、はえもの)が真っ白くなって水に浮かんだり沈んだりしていて死んでいたのである。これにはびっくりした。

このたび、町内を回って、堰がコンクリートに、水路が三面張りになっているのを見て、昔の堰、水路の姿が残る写真を町史に使いたくなった。

どなたか写真を持っておられる方がいましたら、是非お借りしたいと思います。町史編さん室へご連絡ください。

取材後記

町史編さん室：廣澤　靖子

その1：津賀谷獅子舞

第1場 獅子を起こすテガイ子たち

第2場 少女のテガイ子を食べた獅子

日差しがまだまだ強い８月25日、高知県の無形民俗文化財に指定されている「津賀谷獅子舞」が復活するということで、「津賀谷棚田の火祭り・獅子舞復活祭」へ撮影に向かいました。津賀谷獅子舞は、上八川地区に約200年前から伝わる伝統芸能で、八所川内神社に奉納されていました。長い間、踊り手がおらず舞われていませんでしたが、今年11年ぶりに地元の小学生と獅子舞保存会により復活しました。獅子の勇壮なさま、テガイ子である男の子や女の子が汗をかきながら演じる姿は素晴らしい、の一言です。ちなみに、「テガイ子」とは、獅子をからかう子どもたちのことです。

踊りは３場から構成されており、第２場で衝撃的な場面に遭遇します。テガイ子の女の子が食べられてしまうのです。そして、獅子の口から女の子の足が出た状態で威勢よく踊る姿は圧巻。いろいろな獅子舞を見てきましたが、獅子の迫力に圧倒されそうでした。その後、第３場で八所川内神社の氏神様が現れ、無事女の子は助け出されます。終始、獅子舞の演舞に観客から拍手が起こっていました。撮影を機に素晴らしい演舞を見ることができました。

情報提供のお願い

1 環境汚染に関する情報のお願い

旧伊野町の製紙会社などの煙突や、枝川地区の開発前の写真をお持ちの方がおられましたら、事務局までご一報ください。

(環境担当：中島美恵子)

問い合わせ・連絡先　いの町教育委員会社会教育課　町史編さん室(内線31)
☎ 893－2012　FAX 893－2013